

令和2(2020)年度における医療事故及びヒヤリ・ハット事例について(岡本台病院)

1 レベル別件数

区分	レベル	内 容	R2(2020)年度件数	R元(2019)年度件数	増 減
ヒヤリ・ハット事例	0	エラー(※1)や医薬品・医療機器の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	156	170	▲ 14
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない。)	342	409	▲ 67
	2	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサイン(※2)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。)	97	144	▲ 47
	3a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)。	52	67	▲ 15
	小 計 (ヒヤリ・ハット事例)(件) ①		647	790	▲ 143
	ヒヤリ・ハット事例の占める割合(%) (①/③×100)		99.1	98.8	0.3
医療事故	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)。	6	10	▲ 4
	4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0
	4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	0	0
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	0	0	0
	小 計 (医療事故)(件) ②		6	10	▲ 4
	医療事故の占める割合(%) (②/③×100)		0.9	1.2	▲ 0.3
合 計(医療事故及びヒヤリ・ハット事例)(件) ③			653	800	▲ 147

※1 ある行為が、行為者自身が意図したものでない場合、規則に照らして望ましくない場合、第三者からみて望ましくない場合、客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※2 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数

事 象	内 容	R2(2020)年度件数	R元(2019)年度件数	増 減
薬 剤	注射、点滴、内服薬など	151	159	▲ 8
輸 血	血液検査、輸血など	0	0	0
治療・処置	手術、麻酔、処置など	13	11	2
医療機器	医療機器など	0	0	0
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	8	8	0
検 査	採血、撮影など	14	13	1
療養上の世話	転倒、転落、給食、栄養など	304	412	▲ 108
その 他		163	197	▲ 34
計(件)		653	800	▲ 147

((公財)日本医療機能評価機構による分類に準じる)

### 3 代表的事例及び対応策

No.	事象	代表的事例	対応策
1	【レベル3b】 療養上の世話 (転倒)	日頃から突進歩行や小走りな動作がみられていた患者。左膝部の疼痛・腫脹・内出血斑があり、画像検査にて骨折所見があり。左膝蓋骨骨折と診断。転倒によるものと判断。	歩行不安定患者に対して以下を実施。 ・離床センサーマットを使用。 ・ナースコール使用にて移動時の介助を行う。 ・車椅子使用を勧める。
2	【レベル1】 療養上の世話 (薬剤)	入院患者が退院訓練の一環として内服薬の自己管理を行う場合がある。1日分から始まり、状態を見て徐々に日数を増やしていく。看護師が毎日、就寝前に本日1日分の空薬袋を確認する。 1週間分の内服薬(朝・昼・夕・寝る前)自己管理をしている患者が、昼薬を服用していなかった。本人が夕食後に気づき、看護師に報告してきた。 看護師から医師へ報告し、その時点で内服した。	薬カレンダー(日付にポケットが付いたもの)を自室(個室)に設置し、内服の有無を都度自ら目視で確認できるようにした。